

皆んなで選んだ
今月の秀句

告発の遺書が暴いた嘘の嘘
民主主義辺野古の海へ埋めたる
前田大峰

遠田亀子



燦然と輝く鶴彬の句
あかつき
暁を抱いて闇にゐる蕾
やみ
つぼみ

「自粛、自粛」の中、まるで戦時下。あの時代に詠まれた鶴彬の句が輝いている。
この句は一九三六年三月一日発表された。「枯芝よ！ 団結をして春を待つ」が隣にならんでいる。
この前月、2・26事件。暗い社会に突入するきつかけになった。十一月には日独防共協定調印、戦争へ一挙にすすむ。

週刊文春(3/26)に掲載された遺書が語る真実。改竄を指示され鬱を発症、自殺された赤木俊夫さんの無念。嘘に嘘を重ね、関係者全員が栄転出世した。辺野古で埋めるのは土砂ではなく民主主義。狂ったアベ官邸。(周)

例会案内

5月例会
投稿締切
課題「増」
自由吟
自選句、自解筆もよろしく。

5月28日(木)

25日(月)

3句以内

5句以内

◆ 目次

川柳互選		2
課題吟「民」		2
自由吟		3
自選句・おたより		5
私の推薦◎二重丸《白眞弓》		5
目下乱入中《乱鬼龍》		7
ほのぼの川柳		7
立入川柳		7
戦争前夜抄【石川啄木】		12
シベリア抑留の記録		13
編集後記を兼ねて		16

4月の 川柳互選

◆課題吟「民」

一人 3句以内吐

(12人の互選)

1	右往左往コロナに追われる大和民	未知子	7	独裁者民を棄民へ「九条」切り	宏
1	コロナ禍でエゴむき出しになる国民	徹乗	7	暮らしをもコロナの餌食にして棄民	林
1	怒らない市民が私好きである	ダン吉	7	安倍政権長く居座り民滅ぶ	北の山
2	国民の上級・下級格差大	宏	7	コロナ禍で苦しむ民の声聞かず	林
2	緊急宣言で拡散させた避難民	徹乗	8	国民の怒りに驚き一律給付	高坊
2	民活を頼りに過疎地生きのびる	広助	8	シュレッダーの中へ押し込む民主主義	大峰
2	コロナ禍で自民の株価が暴落だ	高坊	8	新自由主義民の福祉を食いつぶす	白眞弓
2	マスク奪い合い感染し合う民もいる	徹乗	9	民よりも税が大事か安倍総理	北の山
2	廃線のそのずつと前民営化	ダン吉	9	百年ごとウィルス顔出し民叱る	立東爺
4	民主主義賢い頭おってこそ	未知子	9	我が民は我慢強いもほどがある	北の山
4	民の声コロナ戦争武器不要	広助	9	民活の御旗で列島ボロ雑巾	立東爺
4	国民が臣民だった日の昭和	亀公子	10	戦乱に飢えた棄民へ向ける銃	亀公子
4	国民の苦しみ資本家知らぬ顔	北の山	11	多数決とても危うい民主主義	ダン吉
4	一〇万も元は民の税 即戻せ	宏	11	そのうちに国会までも民営化	白眞弓

12	経世済民いつしか「官」に置き換わる	立東爺	2	連座制 河井夫婦に しよつ引き遅し	宏
12	辺野古では民主主義を土砂で埋め	林	2	又落ちる格差に命削られる	大峰
14	国民をコロナの策で選り分ける	亀公子	2	コロナ看護師防護服来て看護する	徹乗
15	民主主義辺野古の海へ埋めたる	大峰	2	病院でコロナ菌までつかけて来る	広助
◆自由吟 (互選)					
一人 5 句以内吐 (12 人の互選)					
	筋通すそれもあなたの強さだと	ダン吉	3	神風かやつと桜が散ってくれ	ダン吉
	COVID-19 根底からの造反有理	白眞弓	3	点滴だナースコールで縛られる	ダン吉
	山五月燃える緑に包まれる	ダン吉	4	宇佐まいり天真爛漫お嬢さま	立東爺
	安倍政府 コロナ対策 暮改なり	宏	4	君が代の音符ばらけて散りゆく日	白眞弓
	アベノマスク売りたいけれど売れもせず	徹乗	4	医療用マスク壊れるまで使え	徹乗
1	マスクせず 大分詣り アベ夫人	宏	4	ジョーダンか世界が失笑アベノマスク	高坊
1	増殖中「あれこれ会話」それはそれ	未知子	5	口と鼻両方隠せぬ布マスク	高坊
1	安倍の顔見る度具合悪くなる	徹乗	5	宇佐神の託宣聞きたいお嬢様	立東爺
1	新型コロナとろみのついたスープ煮る	白眞弓	5	下々を無視した政治に終止符を	高坊
2	長生きをすねとヤブ医者薬だし	広助	5	どこまでも愚策のデパート安倍政権	高坊

5	国策を待てず動くぞ地方自治	立東爺
6	やがて来るお札が紙に変わる朝	亀公子
6	昭恵様「ファースト」レディ ワーストね	宏
6	兵器買わされマスクもない病棟	大峰
6	爆買いの兵器にコロナ追いかける	大峰
6	人間の所業を叱る新コロナ	広助
6	税金をマスクに使う赤字国	広助
7	政治家を信じて学ぶ生活苦	広助
7	資本家の儲け第一コロナは二	北の山
7	コロナ禍に生き抜く糧は補償せず	林
7	アベ野心 三権分立 骨抜きへ	宏
7	増税の次にコロナでとどめさす	北の山
8	布マスク二枚で命守らせる	林
8	自粛無視ちやつかり花見をする私人	亀公子
9	病院へ行つてコロナ背負つて来	大峰
9	徴兵を夢みただ今自粛令	ダン吉
9	日本の医療も軟弱地盤なり	徹乗

10	騒動が終わったあとに来る強権	立東爺
10	政権の怠惰コロナがあぶり出す	林
10	コロナ禍で地球が空を取り戻し	白眞弓
10	騒動をチャンスに改憲準備する	立東爺
11	国難を御旗に進む泥の船	亀公子
11	三猿にするにはマスク足りません	白眞弓
12	告発の遺書が暴いた嘘の嘘	亀公子

.....

◆編集子の推薦句

布マスク二枚でエヘンとセキ一ツ 林

選考資料に掲載洩れでしたが、小さなマスクをした総理の姿が見えるような痛烈な皮肉が効いた見事な作品だと思います。別枠で紹介します。深謝。(編集子)



白眞弓 私の推薦
◎二重丸

◎民主主義辺野古の海へ埋めたる 大峰

類似句がありました。が、「民主主義を埋め立てる」方が新鮮かと。

◎多数決とても危うい民主主義 ダン吉

すべて多数決が平等と洗脳されてきたけど、本当は違うということに気づく。

◎国民をコロナの^{ざる}箒で選り分ける 亀公子

箒という表現が新鮮。

◎騒動が終わったあとに来る強権 立東爺

個人的に恐れているもので、つい…。

◎日本の医療も軟弱地盤なり 徹乗

「も」でつないで辺野古にかけているところがいい。

◎徴兵を夢みただ今自肅令 ダン吉

「戦争が廊下の奥に立ってゐた（白泉）」の不気味さを、日々感じている私としては選ばずにいられたかった。

●白眞弓さん（千葉）から近況

人間が生産活動を中止すると、自然がどんどん回復する。だけど、人間は、そのために収入がなくなつて困つたことになる。人間って、何なのだろう。やっぱり、ぶつぶつ交換だけで生きていく世の中になりたい。とぶつぶつ言っているのだ！人間は、お金を発見しちゃったからね。でも知恵もあるよね。と、堂々巡り…。

……………

（総理の憲法改正（緊急事態）の弁を聞いて）

だまされてはいけない。

COVID-19で現行法では、みんなが自肅しな

いからって、憲法でこれを入れたら、ヒットラー時代のドイツになる。

いのちを賭して阻止しなければ。いざとなったら……。

……………

コロナで職を失った人や、減収でその日暮らしもおぼつかない人の話を聞くと、心配だ。でも、そういうながら何もしていない自分に腹も立つ。

2日前にガス漏れ検知器を取り付けに来た人思わず「派遣ですか？」と聞いてしまった。彼は、「いいえ、うちの会社は全員社員です」とうれしい答え。ホッとした。

次に住宅の敷地内でヤクルトの配達の方お二人を見かける。思わず側によって、雇止めとかないか聞いてしまった。明るく「ないですよ。このご時世で2週間のお休みはありますけど」と屈託がない。これもホッとする。なんか困ったことがあったら声をかけてくださいと、できもしないくせに

言ってしまった。

馬鹿だと思う。気ばかり焦っている。

ちゃんと、紹介できる相談場所を紙に書いて持ち歩いたりとかしてから、そういうことしなよ。地に足付けなければ、恥ずかしい。

◆乱 鬼龍さん（東京）より

お元気ですか？ 私元気です毎日、微力を尽くしている日々です。5/3(日)は昼は経産省前 pm1:00 国会前、pm4:00 新宿アルタ前にむしろ旗で登場予定です。

私のファンの若い人がツイッター、フェイスブックをつくってくれています。

↓rankiryu0411

今、「救援川柳句集」をつくっています。

毎日「経産省前テント」は毎日、座り込み。拙吟、お使い道がありましたら、ぜひ、拡散して下さい。



目下
乱入中

・後手後手で無策無能で無責任

安倍晋三が日本亡ぼす

・マスク二枚たった十万でどう生きる

・コロナ一揆命の叫び聞け政治

・亡びるぞ安倍の打倒もできぬなら

乱 鬼龍

乱 鬼龍さん短信

先のことですが、乱 鬼龍さんが「本郷文化フォーラムワーカーズスクールで講師を務めます。

◆ 8月19日(水) わたしが出会った人と運動

「足尾・水俣・福島原発・関ナマの闘いから」

TEL:03-5804-1656 Fax:03-5804-1606

ほのぼの川柳

ブラレール仏間で拵けて楽しいな

神田 鯛

暗算をパパより早くする娘

神田 鯛

叱るけど思いがあるよ我が妻よ

神田 鯛

皺の数老いのご褒美誇りたし

寿賀子

手づくりでアベノマスクよりいい出来だ

東 爺

自粛でも一人遊びが役に立つ

東 爺

立ち入り 立入川柳つてご存知?

難点は貸し借りなしの隣組

植物をさりげなく入れている。南天、樅、

梨が隠れている。

この指輪親譲りです優れもん

びわ、ゆず、レモンが隠れている。

作・辻寿賀子(東京)

『戦争前夜抄』

16

「戦争前夜抄」に関わる情報として石川啄木の詩「はてしなき議論の後」を前号に紹介しました。この啄木の詩は一気に書かれています。そのきっかけが大逆事件でした。

啄木の大逆事件批判

たいぎやく

石川啄木が社会主義に同調する動機となった重要な事件がある。一九一九年八月に起きた大逆事件である。「はてしなき議論の後」の詩を書ききつかけとなった事件でもある。

「大逆事件」は、今では明治政府によるでつちあげと判明している。

《大逆事件》

一九一〇年（明治43年）、明治天皇暗殺計画があったとして幸徳秋水ら26名が逮捕、起訴された事件で、社会運動家だけでなく森鷗外や石川啄木、永井荷風、徳富蘆花など多くの文学者を含む日本国中に大きな

シヨックを与えたとされる。

事件は一九二一年一月二八日に、死刑二四名、有期刑二名の判決が言い渡され、一月二四日に幸徳秋水、森近運平、宮下太吉、新村忠雄、古河力作、奥宮健之、大石誠之助、成石平四郎、松尾卯一太、新美卯一郎、内山愚童らが、一月二五日に菅野須賀子の死刑が執行されました。特赦で無期刑となったのが坂本清馬ら一二名、二名が有期刑となった。

この大逆事件は明治政府が主導したフレームアップ（でつち上げ）事件だったことはよく知られています。でつち上げた本人が得意げに語っている。事件の十八年後、一九二八年九月、小松松吉検事総長が講演した「思想係検事会での秘密速記録」に残されています。

「証拠は薄弱だが、関係ないはずがない」「不逞の共産主義者を尽く検挙しよう」と云ふことに決定した」。さらには「邪推と云へば邪推の認定」だが「有史以来の大事件であるから、法律を超越して処分しなければならぬ、司法官たる者は此の際区々たる訴訟手続などに拘泥すべきでない」と云ふ意見が政府部内にあった」とある。

（なお、この大逆事件に連座した二人を忘れないで

いただきたい。《金子文子と朴烈^{かねこふみこ ぼくれつ}》（ぼくれつ・日本よみ）のことである。昨年『金子文子と朴烈』として映画化され、ロングランをつづけてきた。【後述】

さて、新聞社勤務の啄木は大逆事件に関してに評論「所謂今度の事」（六月）、「時代閉塞の現状」（八月）を執筆。（『朝日新聞』には掲載されていない）。

九月十五日、『朝日新聞』紙上に「朝日歌壇」が作られ、その選者となる。八月の朝鮮併合後の作として次の一首がある。

地図の上朝鮮国にくろぐろと墨を塗りつつ秋風を聴く

啄木は、膨大な大逆事件の公判記録を読み込み、裁判全体は政府によるでっち上げだったと確信する。

五月には幸徳の弁護士宛の意見書を写したものに「A Letter from Prison」と題し、前文を書き、六月十五日から十七日にかけて長編詩「はてしなき議論の後」を一気に書いていた。

後にこの長編詩は独立の題が付けられ、「はてしなき議論の後」「ココアのひと匙」「激論」「書斎の午後」「墓碑銘」「古びた鞆をあけて」「家」「げにさなり、す

わり心地のよき椅子も。」「飛行機」として詩集『呼子と口笛』にまとめられている。

二十四行の「はてしなき議論の後」の詩は仲間と議論する啄木の姿であり、同じ日の詩「ココアのひと匙」は一人の「テロリスト」を描いている。「墓碑銘」の最後の一節は次に様にある。

「今日は五月一日なり、われらの日なり。」

これかれのわれに遺したる最後の言葉なり。

その日の朝、われはかれの病を見舞ひ、

その日の夕、かれは遂に永き眠りに入れり。

彼の遺骸は、一個の唯物論者として、

かの栗の木の下に葬られたり。

われら同志の撰びたる墓碑銘は左の如し、

「われには何時にでも起つことを得る準備あり。」

啄木の社会を見る眼は、正義感が元にある。日本初の公害事件と言われる足尾鉾毒事件で衆議院議員・田中正造の天皇直訴で政界を追われた事件があった。当時、盛岡中学（現・県立盛岡第一高校）の学生であった啄木は報を聞いて、「夕川に 葦は枯れたり 血にま

どふ 民の叫びのなど悲しきや」と、その思いを託した。
(今、教科書に啄木が消されている。)

さて、前述した大逆事件に連座した金子文子と朴烈のこと。

朴烈事件

この事件には何ひとつ客観的な物的証拠というものはない。爆弾もなければ、爆弾に似たものもなかった。ただ「天皇を殺そうと思つた」だけであり、そのために「爆弾を手に入れようと思つた」だけである。

朴烈、文子のふたりを、大逆罪という大罪の犯人にする理由は、当時の社会性の特別に重大な事情の中にあつたといわれる。

関東大震災で巻き起こった「鮮人さわぎ」

関東大震災の真つ最中に、いわゆる「鮮人さわぎ」というものが起き、どさくさまぎれに、関東一帯で軍隊や警察や自警団の手でおこなわれた、三千名に近い朝鮮人の大虐殺！がある。

関東大震災は一九二三年（大正12年9月1日）午前

11時59分に発生した。午後4時ごろには、東京の本所深川をはじめ、日本橋から浅草、神田の一带は火の海となり、横浜はほとんど灰になっていた。朝鮮人さわぎはその焼け跡の港となった横浜で、その晩のうちに起きた。焼け出された何万かの横浜市民は、波止場で野宿した。命は助かったが食物がない。飢えた彼らがいっいついたのが税関倉庫にある輸入食糧である。倉庫をやぶつてそれを持ち出すことであつた。倉庫やぶりをしたのが、避難していた右翼団体の頭目、立憲労働党総理・山口正憲とその女房である。彼らは右翼だが普段でも赤旗赤ハチマキで押し歩いてた。そのときも赤旗をおし立てて食糧を持ち出し避難民にわけてやつた、というのが発端である。

流言蜚語

ところがそのあとが悪かつた。山口正憲一派は倉庫やぶりの責任をまぬかれるために、それを朝鮮人になすりつけた。「襲撃したのは朝鮮人だ。朝鮮人がやつたのだ。」と焼けて灰になった横浜の街の中を、その晩さかんにどなつてあるいた。この悪質なデマがおそろしい流言蜚語に、いつのまにか変つていったのである。

その晩、猛火の中を横浜から東京に逃げてきた憲兵のひとり、本気になって内務省に訴え出た。

たまたま、加藤友三郎内閣がたおれたのが八月の末で、山本権兵衛内閣が焼けのこった赤坂離宮で組閣したのが九月二日の夜だった。そのような政治的空白状態の中で、内務省に居残っていたのが、加藤内閣の内務大臣水野錬太郎である。水野は、かつて朝鮮総督府の内務部長をしていたこともあって、朝鮮人を怖れていた。生れつき気の小さい男で、すっかり青くなった。そこであらゆる警察の通信網を総動員して、その情報を関東一帯に流し、全国に向ってつぎのような無電を打った。

「朝鮮人にしてバクダンをたずさえて横行するものあり。社会主義その他不逞無頼の徒これに和し放火掠奪いたらざるなし、各位においてしかるべき御手配をこつ。」

亀井戸署では六百人の朝鮮人と十一名の日本人社会主義者が軍隊の手で殺された。多摩川では習志野の騎

兵連隊の包囲攻撃をうけて四百が全滅した。埼玉県妻沼近くの利根河原でも三百人の老幼男女が殺された。こうして関東地方一帯で三千人余りの朝鮮人の大量虐殺が公然とおこなわれたのである。

「なぜ大虐殺はおこなわれたのか？」

外務省にもちこまれた抗議

東京にいた外国の大使館員や公使館員は、日比谷の帝国ホテルに避難していた。食堂での雑談のときに大虐殺が問題になった。強硬だったのはアメリカ大使。「このようなおそろべき大虐殺が公然とおこなわれる日本という国は、断じて文明国とはみとめられない。ことに、それを平気で見ていてとめようとする日本政府は世界中でも一ばん野蛮な政府である。このような政府と国民とを相手にして、われわれは今後とも正常な国交をつづけてゆくことができるだろうか」と、各国の大使公使連名で抗議文が外務省へもちこまれた。

外務省はあわてて、朝鮮人虐殺を禁止させ、九月八日（十六日）でようやく事態は平静にもどった。

だが、ここで厄介な問題が残った。何故こうした事件

になったのか、外国へ説明する問題である。どうしても「朝鮮人が企てたから日本人の反感を買った」ことにしなければならぬ。そしてデッチ上げられたのが朴烈事件であった。

朴烈と金子文子

日露戦争のあと、初代の韓国総監伊藤博文暗殺事件が起き、それを機会に日本は朝鮮を併合（1910年8月）。

その結果は朝鮮人と日本人とのあいだに極端な差別待遇がおこなわれた。学校では朝鮮語をつかうことが厳禁され、日本語をつかわないと罰をくった。いつのまにか被圧迫民族として誇りと怒りが満ちていた。

一九一九年（大正8年）三月一日、朝鮮半島で万歳独立運動が起きた。朴烈19歳。京城に出て民族独立運動に参加。憲兵や警察のきびしい追究をうけ、翌年日本に逃亡。朴烈は次第に大杉栄の革命的無政府主義の影響をうけ、いつか無政府主義の旗、黒旗の下に集まるようになって。無政府運動の中で二人は出会う。

（つづく）

※参考資料は、半藤一利「昭和史」、松本清張「昭和史発掘」他、インターネット検索やネット辞書など多数を元にしました。

シベリア抑留の記録

18

「在ソ三年 生と死のドラマ」

故・秋山茂氏の遺稿より

恋花。随分危険な賭け事である。不時点呼でもあれば「万事休す」。私も当然監獄行き。河合は独立中隊のため僅かなソ連警備兵の取り締まりの緩やかなのを幸いにゼムリアンカに帰ってから八百米余りはなれた彼女の許に通った。

なんの恨みもない人と人が殺し合う戦争もつきつめて見れば、政権の座にある個人が国の運転を誤った為でしかないとすれば、河合の場合、悲恋というには余りにも哀れに思われた。

彼等二人の間に何が語られ、何があったかは知らないが、「河合が捕虜でさえなければ結婚して日本へ行く」と慟哭したというが、恋は国境を越えて火と燃えていた事実は間違いない、彼が忍び逢いの帰

りに貰って来る土産の白パン、果物、缶詰などがどんなに分隊員の胃を満たして呉れたか特筆の限りでない。然し、斯うしたソ連人女性と日本人捕虜とのロマンスは在ソ中たびたび耳にしたし、「日本人との間に子供が！」と考へられないことではない。

8 野草と草

昭和二十年（一九四五年）八月の終戦時ソ連軍の捕虜となった日本人七十万人（ソ連側は五十万人と発表、二十万人のひらきがある）のうち、死亡者の数は五万数千人とされており明確でない。然しソ連国土全域に亘る収容所の配置からすれば、一概に断定は出来ないにしてもわれわれのように極寒地のシベリヤで冬は伐採のため山に入り春の訪れと共に下山して都市周辺で作業し、秋風と共に又入山伐採という生活を繰り返した労働大隊に関する限り生命を維持し原動力となったものは、主食は別として馬鈴薯及び野草と茸きのこだということのも決して過言ではない。

既に書いたようにソ連政府から支給される食糧（第六定量）がそのまま捕虜の献立に上っていれば五万人の死亡者は大幅に減っていたのであるが、現実には戦勝国ソ連邦と雖も破綻寸前の窮乏状態にあり、食料衣料共に配給制で軍隊も亦例外ではなく、対独戦遂行のためのソ連国民の耐乏生活の実態は第二次大戦時の日本国民の耐乏生活に勝るとも劣らぬ厳しいものであった。なればこそ満州に進攻したソ連軍が戦勝の意気あがる国府軍や八路軍が満州に進入するのをなんとか口実をつけて万里の長城線や営口秦皇島などの海岸線で阻止し、この間の三カ月（八月～十月）余りの間に占領物資と称して全満州のすべての物資は勿論工場や諸施設の機械器具まで悉く取り外して逸早く自国内に搬入した真意も国の復興を意図してのものであって、斯様に苦しい中にあり乍ら、ソ連政府が推定七十万（一般市民及び開拓義勇青少年隊員を含む）の抑留日本人に第六定量を規定したことは注目に価する。然も現実には政

府の意図に反し何れの收容所でも定量を下廻り、加えて寒気と重労働のため栄養失調に陥る者が多く、あたら尊い生命を異国の山野にさらす結果を招いたのである。

五月の声をきくとシベリヤにも漸く春の香が漂いはじめ白樺の芽も日毎にふくらみ伐採地では残雪の間から名も知れぬ雑草が逞しく新芽をのぞかせ、既に樹液の流動がはじまった為、白樺を伐る大鋸の齒の間から盛んに雪が垂れるが雪は仲々消えない。

すべての生物が春の息吹を感じる頃、捕虜もはじめてぼーっと大きな吐息をつく。然し「生き延びた」という喜びは直ぐ空腹感に変わり、野草採りとなる。

山腹にきれいに配置された八人用の幕舎では燃料や燈火代用に白樺の樹皮や松根を使っているため誰もが真っ黒い顔をして眼ばかりぎよつつかした捕虜が腰に「乞食袋」と呼んだ手製の袋を吊し山峡をうろつく様は異様としか云いようがない。野草のうち

葦(にら)や野蒜たんぽぽ、あかぎなどは最高級品で、たとへ夫れが塩味にしる如何に珍重がられたことだろう。然しこんな誰もが好む草々には自ら限界があり漸がて一般の野草を喰うようになったが紫色の花の咲いた捕虜仲間「シベリヤほうれん草」とよんだ草は軟らかで美味い野草であった。

私の経験からすれば葎や萱のような禾本科植物の外はどんな野草でも熱湯で灰汁を抜けば食べられることを知り、満腹感を味はうため誰もが塩味を付けたゆでた野草を沢山隠くし持つており、大便所の黄金の山は緑色の山と変じ「喰った者は生きられる」という鉄則の前にはソ連側の「草を喰うことを厳禁する」という通達も何等効果はなかった。

私にとって野草と共に忘れられない食べ物がある。最初の茸との出合は入ソした翌年の昭和二十一年(一九四六年)一月パシキーという山の中で空腹と闘い乍ら伐採作業をしている時、伐採のため掻き分けた雪の中から偶然にも何年前のものかは

判らぬが、真っ黒くかちかちに凍ったかさの直径が十五糎程の茸が転がり出たので、早速幕舎に持ち帰り燕麦の粥に混ぜて喰べたところ、味も香りもないが量が増へ大いに腹の足しになったので、それから後は茸も大切に捕虜の食糧となり各自が雪の下から茸を探し出すことに懸命となった。

ところがその後既述したように昭和二十二年（二九四七年）六月頃から約二箇月ばかりイルクツク市郊外のワエンノガラドクタという処で器材係ということで収容所の柵外に造られた器材小屋に一人寝起きしていた時、私は思わぬ茸の恵みにあずかる仕儀となった。というのは、収容所から約百米離れた器材小屋の前は四米余りの道路を距てて面積が七、八十米平方位ある荒れ地に、幹の直径が五十糎程のどろ柳やポプラ、白樺などが二、三十本生えた一見荒れた遊園地か小公園跡といった疎林であったが、此処の草叢に名も知れぬきれいないくつかの種類の茸が沢山生えており、臭いを嗅いでみたところ、

ろ、殆んど無臭に近く、ソ連人が茸を喰べないことは聞いていたが、とにかく見事なまでの茸で、ところどころに群生しているものもある。喰べられるかどうか？ 一抹の不安を持ち乍らも二、三本宛持ち帰り馬鈴薯と一緒に炊いて、恐る恐る試食してみたが、新鮮なだけに確かに美味い！ 然も一夜明けたが異常はない。

しめた！ とばかり夫れからは暇ある毎に林に入って茸を採り収容所に居る旧分隊員などにも与えていたところ三週間あまり経ったある日の午後、夢中で茸を採っている処を運悪く通り掛かった四人連れのソ連軍将校に見つけられて了った。瞬間「しまった！」と思つたが後の祭りである。

（つづく）

※^{かほん}禾本科植物Ⅱ稻科の総称

編集後記を兼ねて

▼全国での「自肅生活」で気も滅入る日々ですが、これをチャンスとばかり、日本会議政権は着々と改憲準備を模索。川柳ならではの表現で時代に声をあげたいものです。▼雰囲気はまさに戦争前夜。石川啄木の思想を深くした大逆事件。事件に連座した金子文子と朴烈は映画にもなりDVDにもなっている。松本清張も「昭和史発掘」で詳しく論じている。▼金子文子の獄中手記「何が私をこうさせたか」(周)

5月例会のご案内 (毎月第4木曜日)

- ◆例会 5月28日(木) ◆投稿×切:25日(月)
- ◆課題「増」 3句以内 ◆自由吟:5句以内
- ◆自選吟、連作、エッセイ、川柳論、ご意見などもお願いします。川柳に関する資料などもご紹介下さい。
- ◆句報を持参下さい。例会で話し合います。
- 投稿 FAX(076) 254-0762
- メールアドレスは下段に。

郵送は
下段住所へ。

「和川柳社」会報
会員募集しています!

同人: 4000 円/年
投句/購読: 2000 円/年
★会報の他に、関連資料などもお送りします。



→映画のチラシ ←獄中手記



たか」(公判記録)は読者の心を打つ。二人は死刑判決後、恩赦で無期に減刑。文子は四ヵ月後、獄中で自殺。恩赦を恥じていたとされる。23歳であった。(周)

和川柳社 〒920-0335 金沢市金石東2丁目 15-30 (渡辺 寛)

電話 FAX: 076-254-0762 PC-mail: kananabe@popolo.org

携帯: 090-9445-1302 携帯 mail: kan-wata@i.softbank.jp

振込先: 北國銀行中央市場支店 #191 普通 640 「和川柳社」

発送に協力いただいています。

▼《食育のグリーンノート&土の音工房》《オカリナ制作》・上村彰